

「文化の十字路」が生まれる新たな文化芸術の拠点

～ 京都駅東部エリア ～



京都市立芸術大学移転整備事業について



京都駅東部エリアは、京都駅西部エリアから京都駅、東山を結ぶ交流や賑わいの創出が期待される「新たな文化軸」、多様な自然が息づき、人々の生活に潤いを与え、誰もが憩い、交流し、新たな文化が芽生える場ともなってきた鴨川、高瀬川といった「悠久の自然・文化軸」、この二つの軸が交差する「文化の十字路」と言ふべき立地にあります。

この立地を生かし、周辺のまちづくりとも連携しながら、世界につながる新たな文化芸術の拠点としていきます。

京都市立芸術大学（以下「京都芸大」という。）は、建学以来140年以上にわたり、国内外の芸術界や産業界で活躍する人々を輩出し、文化芸術の発展に貢献してきました。

京都市では、これまでの質の高い芸術教育を継承しながら、現在の京都芸大の抱える課題を解決し、京都芸大が世界に向けて一層の飛躍を果たすとともに、「市民に愛され、誇りに思っただけの大学」として、京都のまちとともに発展していくよう、京都の玄関口であるJR京都駅東部エリアへの移転整備を進めています。

あわせて、京都芸大との連携により、教育・研究活動の相乗効果を図るために、京都市立銅駝美術工芸高等学校（以下「銅駝美工」という。）についても、同エリアへ移転整備します。

この移転整備によって、この地域が、文化芸術創造の“火床”となり、「文化芸術都市・京都」の新たなシンボルゾーンとなることを目指しています。

様々な人々が集い、交流する新しいキャンパスを実現し、世界に冠たる芸術大学として、50年後、100年後の未来に羽ばたけるよう、移転整備事業を進めていきます。

【お問合せ・発行】

担当：京都市行財政局総務部総務課

電話：075-222-3045, FAX:075-222-3838

京都市印刷物第 034287 号

令和3年7月発行

● 京都市立芸術大学について

芸術系の大学として全国で最も長い歴史を持っています。

約 1,200 名の学生と教員が在籍しており、美術と音楽からなる学部と大学院のほか、日本の伝統的な音楽や芸術資源の研究機関などがあります。

● 京都市立銅駝美術工芸高等学校について

京都芸大と同じ起源をもつ日本で最初の公立美術工芸専門の高校です。

約 300 名の生徒と教員が在籍しており、日本画や彫刻のほか、陶芸やデザインなど、全部で 8 つの専攻があります。

● 移転整備のスケジュールについて

現在は、移転整備に向けた工事を行っています。

令和 3 年度から着工し、令和 5 年度に完成する予定です。

令和元年度	設計
令和3年度 ～令和5年度	工事
令和5年度	完成(予定)

キャンパス計画

- 塩小路通沿いには、約 800 席の音楽ホールのほか、教員・学生の作品展や、国内外で活躍するアーティストの展覧会などを開催するギャラリーを整備します。
- 大学図書館や食堂は、大学の関係者以外の方にも利用していただけます。
- 柳原銀行記念資料館や高瀬川など、崇仁地域の資源を活用した憩いのスペースをキャンパス内に整備します。
- 元崇仁小学校敷地を活用し、敷地の北側には銅駝美工を配置します。



上記配置図①からのイメージ



塩小路通から音楽ホール兼講堂のある3階へ、スムーズにアクセスできる大階段を設けて、キャンパス内に人の流れを作ります。

上記配置図②からのイメージ



キャンパスを南北に貫く大通りや、中高層階の大きなテラスが芸術活動の場になるとともに、大学を訪れる人々と芸大生の交流の場となり、都市の中の大学の新しい在り方を表現します。

上記配置図③からのイメージ



緑と水辺を活かした憩いの空間を整備するほか、制作中の作品や創作活動が外から見えるような、開放的なデザインとします。

上記配置図④からのイメージ



鴨川に沿って流れるように屋根をかけ、北側の銅駝美工と一体感のあるデザインとします。また、キャンパスと鴨川がつながるようにデザインし、自然に親しみながら創作活動ができるようにします。